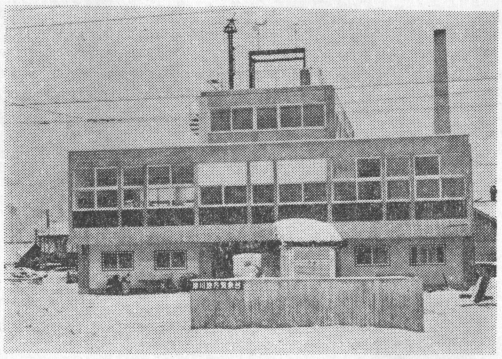
# 地方だより



旭川地方気象台

クマの話——旭川地方気象台というよりは，明治以来旭川測候所として親しまれてきた古い庁舎も，ご覧のようにすっかり新築され，名実ともに地方気象台らしくなった．ここ上川地方は，景勝大雪山国立公園をひかえ，空知地方とともに北海道の穀倉でもある．

紅葉の秋10月を送って，職員一同ほっと一息．ご承知かもしれないが，当地方には名寄，富良野の雨量通報所や甲種観測所を除いて，水害関係，農業気象関係の観測所や施設が約70点余りもある．10月に入ると，雨から雪えの観測切換えのため忙しく歩き回らねばならない．このなかにはクマに出会いそうな所も多い．ところが今年の秋1カ月の間だけでも，クマの記事が新聞に報じられた回数は十数回にもおよぶ．

夏には高校の山岳部員が宿営中にクマにおそわれ，その一人は一晩中つきまとわれてやっと助かった．突然とび出したクマに顔面をえぐり取られた人，足をかみつかれた人，一撃をくわえられただけで助かつた農婦，撃ち損じて死んだ人もある．銃で撃ちとるのであれば，一発必中でなければかえって手負いのクマとなって危険である．

猟友会の会長をつとめ，これまでに50頭以上も射止めた経験のある名人も，今秋ついに撃ちそこねて，かえらぬ人となった．クマをとろうと仕掛けられた銃で，人が重傷を負った例もある．仕掛け銃やおとし穴，わな，毒殺などは狩猟法で禁じられているので，仕掛けた人は狩猟法違反と傷害罪で検挙されたという話，最近の交通難を反映してか，汽車にひかれたクマ．横断不注意のクマが小型トラックにはね飛ばされて二転，三転してころり即死．トラックはヘッドライトが小破した程度ですんだという．

## 旭川地方気象台

クマはなんとなく愛きようがあり，別名「(山の) オヤジ」と呼ばれて北海道の象徴の一つにされているから，みな作り話のように思われるが，いづれも最近の出来事である．「ヒグマ」は猛獣の中に入り，大きいのは200から350キロもある．近頃になって開拓時代のように再びクマの被害が目立ってきたのは，開発が進んでクマの領分が狭められたり，観光登山ブームで山に入る人間が多くなったせいだという．今年のように雨と悪天続きで農作物の出来が良くない年は，山の木の実も不作のため，冬ごもり前のクマは，白昼でもふもとに現われて農作物を荒し，家畜を襲う，十勝岳爆発の降灰の影響で，特定の地域に偏って多くなったという説もある．学校児童は護衛つきで集団通学したり，山道にラウドスピーカーを適当に配置し，音楽を流してクマを遠ざけ一石二鳥をねらったり，自衛隊の出動を要請したり，様々である．クマ退治一頭につき5千円から1万円の報償金を予算計上した村も，すでに予算超過で悩んでいるとか，北海道の山岳雑誌も，ヒグマ騒動特集号を発行して注意と対策を喚起したほどである．

生々しいクマの足跡　忠別岳にて
(上田豊治氏撮影)

当台でも山回りを前にして，対策の一助にと携行用サイレンを購入した．十勝岳爆発では当台の2氏が奇跡的な生還をされたが，クマ，近くに出没の報で一時入山を見合わせた以外には，幸いにもクマに遭難していない．その道の権威や経験者に聞いても，『君子危うきに近よらず』以外にただ一つの決め手はなさそう．しかし，それでは仕事にならない．そこで北海道知事は次のような指示を流した．いわく『クマ対策．金太郎の腹掛けを送った知事より，辺地学校長どの』(北海道新聞うそクラブ横車氏．

(串崎利兵衛記)